

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02866

研究課題名(和文) 平戸藩楽歳堂文庫をめぐる書物環境と文庫形成過程に関する基盤的研究

研究課題名(英文) "Rakusaidou" of the Hirado domain in the Edo period A basic study on the book environment surrounding the bunko and the formation process of the library

研究代表者

岩崎 義則 (IWASAKI, YOSHINORI)

九州大学・人文科学研究院・准教授

研究者番号：60294849

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：平戸藩主松浦静山が創設した平戸藩楽歳堂文庫(以下、「楽歳堂」)を研究対象とし、その文庫をめぐる書物環境と文庫の形成過程を明らかにする観点から、静山が成作・入手した蔵書目録を中心とした研究を行った。松浦史料博物館に伝来する各種の蔵書目録から、書目のデータベース化を行い、これをWEB上で公開。楽歳堂のほぼ全容を復元できた。

また、比較対象として、静山と書物をめぐり親密な交流があった豊後佐伯藩主毛利高標と佐伯文庫を取り上げた。楽歳堂にある佐伯文庫の蔵書目録を検討し、文庫の形成過程・管理方法等が解明できた。また、高標の長崎からの輸入漢籍調達が、楽歳堂の漢籍収集に与えた影響・意義等を明らかにできた。

研究成果の概要(英文)：In this research, we studied Hiradohan-Rakusaido-Bunko made by Matura Seizan, and studied on the catalog of documents collected and obtained by Seizan. It is an achievement that we made catalog database from various catalog catalogs transferred to Matsura Historical Musium and opened it on the web. With this database, almost all of Rakusaido could be restored.

Also, as comparison subjects, we took up Mouri Takasue and Saiki-Bunko who had intimate interaction with Seizan. I studied the collection catalog of Saiki-Bunko in Rakusaido, and I could clarify the formation process and management method of the library. In addition, we were able to clarify the influence / significance etc given to Rakuseido by Takasue's purchase of Chinese certificate in Nagasaki.

研究分野：日本近世史

キーワード：平戸藩楽歳堂文庫 松浦静山 毛利高標 佐伯文庫 蔵書目録 書物環境

1. 研究開始当初の背景

近世大名の文庫・蔵書研究の基盤は、福井久蔵『諸大名の学術と研究』(厚生閣・1937年)によって作られた。個別大名・文事の研究は、古くは前田綱紀を事例とした近藤磐雄『加賀松雲公 全3巻』(1909年)などの蓄積があり、梅木幸吉『佐伯文庫の研究』(佐伯印刷株式会社・1979年10月)など、基礎的研究も充実している。近年、日本近世史における書物・書物文化に関する研究は、「書物・出版と社会変容」研究会の勢力的な活動によって、重要なテーマとしての地位を確立した(同研究会編集、『書物・出版と社会変容』1号-16号・2006年〜)。こうした中で、細川家の永青文庫に関しては、書物・史料を統合的に分析した画期的な研究成果も登場している(森正人他編『細川家の歴史資料と書籍-永青文庫資料論』・吉川弘文館・2013年3月)。本研究が対象とする平戸藩楽歳堂文庫については、輸入洋書の精緻な研究が松田清『洋学の書誌的研究』(臨川書店・1998年9月)によってなされるなど、国際性豊かな楽歳堂の蔵書・収蔵文物は、内外の研究者の関心を常に惹き起している。こうした中、本研究の代表者である岩崎は、長崎奉行・長崎糸割符宿老による漢籍調達の実態を解明した(森平雅彦他『東アジア世界の交流と変容』・九州大学出版会・2011年4月)が、洋書を除外した和書・漢籍・文物(貨幣・玉石・古瓦など)を含めた包括的な楽歳堂文庫の学術的研究は、未だ実現していない。

2. 研究の目的

本研究は、全278巻にも及ぶ随筆『甲子夜話』の著者として知られる文人大名・第9代平戸藩主松浦静山(清:1760~1841)が、安永8年(1779)、平戸城内に創設した平戸藩楽歳堂文庫(以下、「楽歳堂」)を対象とした包括的な基礎研究を行い、同文庫の文化的・学術的な研究基盤を整備することにある。そのため、第1に、同文庫をめぐる共時的な書物環境を

明らかにする。第2に、書物・文物の調達手段・調達先を分析し、通時的な文庫形成過程を究明する。第3に、他の大名家の文庫との比較検討によって、大名文庫としての楽歳堂の特質を解明する。以上の研究により、楽歳堂をめぐる大名文庫研究の基盤を確立する。

3. 研究の方法

(1) 分析対象とする史料(蔵書目録)

本研究では、静山自筆の蔵書目録、即ち(A)「平戸藩楽歳堂蔵書目録」(全15冊)・(B)「新增書目」(全23冊)を中心として、「平戸藩楽歳堂蔵書目録」(全6冊・京都大学所蔵)・「楽歳堂蔵和漢籍目録」(全7冊)・「家乗目簿」(全1冊)・「琴書要項」(全1冊)などの楽歳堂蔵書目録類の分析を行う(京都大学以外は、松浦史料博物館蔵)。

(A)は、天明5年(1785)から寛政12年(1800)までの蔵書目録であり、(B)は、享和元年(1801)以降、天保12年(1841)に静山が死去する直前までの目録である。即ち、(A)(B)両者の目録には、藩主時代及び隠居時代の書物環境と文庫形成過程がそれぞれ明確に反映されており、蔵書目録に記載された各種情報は本研究の基礎となる。

(2) 書物情報をめぐる関連史料

静山編述の随筆『甲子夜話』を筆頭として、「感恩齋校書余録」・「続金銀錢譜」・「古瓦譜」・「続古印譜」などの収蔵品考証に関する自著類、書物情報の自筆録「待來記」・「寤寐求之録」が松浦史料博物館に伝来する。また、静山は、豊後佐伯毛利家・大和郡山柳沢家・周防徳山毛利家の蔵書目録(静山写本)を筆写し、これを楽歳堂に残した(徳山毛利家本は散逸)。さらに、自らが整理した「諸方來翰」(書簡・776通)も同館に伝来し、大名・文人らとの交流実態が復元可能である。

(3) 研究の方法

共時的な書物環境においては、静山が書物・文物に関して交友を持った大名と文人について、それぞれの大名・文人の蔵書目録を

調査収集した上で、静山と楽歳堂をめぐる書物環境を具体的な書物・文物の集積・集合体として復元する。

通時的な文庫形成過程では、楽歳堂の蔵書目録の記載情報と関連史料を分析し、大名・文人らを媒介とした書物・文物の集積・蓄積の様相を藩主時代と隠居時代に区分して明らかにする。

他の大名文庫との比較検討においては、静山と交友があった大名家（主に豊後佐伯毛利家）について、蔵書目録を用いた比較検討を実施し、楽歳堂の機能・構造の特質を究明する。

4. 研究成果

(1) 蔵書目録データ検索システムの構築と公開

既に研究代表者が作成・構築していた「甲子夜話全文検索システム」の仕様を見直し、「甲子夜話全文検索システム及び平戸藩楽歳堂蔵書目録データベース」を構築し、WEBサイトで公開した。このサイトでは、書名を入力すると、その書名が、(A)『平戸藩楽歳堂蔵書目録』・(B)『新增書目』・(C)『楽歳堂蔵和漢書目』に収録されていた場合、どの目録のどの部類に収録されているかを検索することが可能となっている。あわせて、その書名が存在する随筆『甲子夜話』の収録巻数・記事番号も表示される仕様である。

(2) 蔵書目録研究

平戸藩楽歳堂文庫の形成過程を解明することを目的として、文庫創設者たる静山自身が作成した蔵書目録の研究と、静山と交流があった大名・文人らの蔵書目録の調査と研究を行った。豊後佐伯藩の毛利高標との交流については、平戸藩楽歳堂文庫に所蔵される「佐伯侯蔵書目録」(2冊)についてのデータベース化を完了した(上記、データベースにアップロード済)。

(3) 平戸藩楽歳堂文庫の書物研究

平戸藩楽歳堂文庫の蔵書形成・収集の過程を復元するため、比較的物量が多く、史料的价值が高いと判断した書物に関する個別研究も進めた。就中、『壱岐国続風土記』(117冊)の全冊悉皆調査と精細画像の撮影を完遂できた。デジタル撮影を行った精細画像は、松浦史料博物館との協議にもとづき、同館へと寄贈した。今後、同館においてその利用・活用が図られる予定である。その他、関連するものとして、『壱岐国続風土記抄』(1冊)・『壱岐史拾遺』(全16冊)・『田舎廻』(全23冊)など、松浦静山が作成を指示し、あるいは収集した平戸藩領の地誌類を網羅的に調査した。その一方、壱岐を拠点に活動した民俗学者・山口麻太郎氏が残した『壱岐郷土研究所日誌』(全19冊・長崎歴史文化博物館蔵)を調査。その結果、近世期から昭和期にいたる平戸藩楽歳堂文庫における壱岐関連の地誌類の伝来状況などが解明できた。特に、松浦家が作成に大きく関与し、現在散逸している松浦家本『壱岐名勝図絵』について、その青焼複製本が山口文庫中に伝来している事実が確認できた点は大きな成果である。こうした伝来経緯を踏まえて、山口文庫の青焼『壱岐名勝図絵』の保存と活用が、長崎歴史文化博物館において図られる予定である。

また、松浦静山が『甲子夜話』に記し、かつ、平戸藩楽歳堂文庫に由緒書などの関連記録・書物が残る高野山と忠孝山小童寺(兵庫県川西市)の調査を実施した。なお、現在、忠孝山小童寺には、こうした同寺の由緒書などは一切残っておらず、平戸藩楽歳堂文庫に伝来した同寺の由緒書は史料的价值が高く、また、その伝来の経緯についても、平戸藩領以外の寺社・寺院関係書物・記録の伝来を究明する観点から、調査研究の価値があると判断した。小童寺の現地調査によって、第5代藩主松浦棟が奉納した石灯籠など松浦家の由来文化財も、現地で調査することができた。高野山・小童寺及びこれに類する平戸藩と他

領寺社・寺院に関する書物・記録の伝来については、既に関連史料の調査と翻刻は完了済である。現在、その投稿を準備中である。

(3) 文人大名との交流と書物の集積

平戸藩楽歳堂文庫の書物環境を復元する観点から、『佐伯侯蔵書目録』(天明6年と寛政5年の2冊が存在)及び毛利高標の松浦静山宛自筆書簡(松浦史料博物館)をもとに、両者の交流実態についての研究を集中的に行った。調査対象とした佐伯藩『御用日記』の調査回数及び撮影・解読量も膨大に及んだ(1ヶ月分の日記が約1,000丁に及ぶ)。まず、天明6年(1786)と寛政5年(1793)の2冊の『佐伯侯蔵書目録』の書目、即ち、天明6年は1,503件、寛政5年は1,652件の書目を逐一検討。天明6年と寛政5年当時の佐伯文庫の蔵書の復元を試みた。その際、前述の『佐伯侯蔵書目録』のデータベースを活用。また、両者の書目を対照して、佐伯文庫の分類・整理・管理の事情を解明した。これらは、従来の先行研究では明らかになっておらず、画期的な成果である。その結果、天明元年(1781)の文庫開設を前後する同文庫の形成過程を明らかにすると同時に、天明5年次の輸入漢籍長崎直調達が、佐伯文庫さらには平戸藩楽歳堂文庫の蔵書形成においても、重要な画期となることを究明した。以上の研究成果は、『佐伯文庫の形成過程に関する一考察-平戸藩楽歳堂文庫と佐伯藩の関連史料の分析-』(長崎市長崎学研究所紀要『長崎学』第2号)として公表した。

(4) その他

長崎歴史文化博物館においては、長崎県が所管する松浦静山の書簡類を中心とした160点の文書目録データベースを作成した。当該データは、長崎県へと寄贈済みであり、今後、長崎歴史文化博物館の資料検索データベースとして活用される予定である。

また、福岡市総合図書館が主催する平成27年度～平成29年度の古文書学講座(近世)

において、平戸藩の記録類をテキストとして取り上げた。また、月一度の一般市民を対象とした古文書講座においても、静山の編述になる『敬孝述事 巻34』をテキストとして採用し、研究成果の一般市民への還元を積極的にはかった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

岩崎義則、佐伯文庫形成過程に関する一考察 平戸藩楽歳堂文庫と佐伯藩の関連史料の分析より、長崎市長崎学研究所紀要『長崎学』第2号、2018年、3-18、査読無

[学会発表](計 1 件)

岩崎義則、佐伯文庫形成過程に関する一考察 平戸藩楽歳堂文庫蔵「佐伯侯蔵書目録」の検討、九州史学会、2017年

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等
<http://yosi-iwa.sakura.ne.jp/programs/essay/contents/public/>

文書目録等
長崎県所管・平戸高野谷松浦家文書目録データ(松浦静山自筆書簡を含む160点)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩崎 義則 (IWASAKI, Yoshinori)

九州大学・大学院人文科学研究院・准教授

研究者番号：60294849

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()